

文脈指示のソ系・ア系の混乱と誤用

— 指示詞導入の問題点 —

粕谷 真由美

要 旨

日本語学習者の、指示詞（コ・ソ・ア）の使い分けに関しては、膨大な量の研究が積み重ねられてきた。しかし、その研究が日本語教育の現場で生かされているとは言い難く、日本経済大学東京渋谷キャンパスの留学生の発話や作文においても、しばしば、文脈指示詞のソ系とア系の誤用が見受けられる。多くの研究者が、誤用の原因を「母語の干渉」のみならず、「現場指示詞・文脈指示詞の文法指導の問題」と指摘しているが、これはまさに、指示詞の指導に限らない、初級から中級への移行段階における文法指導全般の難しさを示しているといえるだろう。

本キャンパスの中国人留学生（N2～N1 レベル）を対象に、文脈指示詞（ソ系・ア系）の習得度確認テストをした結果、予想通り、特に「ア系の誤用」が顕著に表れた。そのテスト結果を分析し、誤用の修正を目的とした授業を試みたのち、再度確認テストを実施したところ、97%の正解率に達した。サンプルサイズが小さいこと、対象が日本語とは指示詞の体系が異なる中国人学生に限られたことなどから、統計としての有意性が高いとは言えないが、ソ系・ア系の使い分けを体系的に理解していないことが誤用の原因であることは示唆された。

今後は、日本語と同じ三項対立指示体系のベトナム、ネパール語話者の留学生を対象に、さらなる調査・研究を進めていきたいと考える。

[キーワード] 文脈指示詞；ソ系・ア系；母語の干渉；三項対立指示体系

1. はじめに

「私は4年前に日本にきました。あの時は日本語がぜんぜんわかりませんでした。挨拶くらいしかできない私に、日本語学校の先生は、根気強く日本語を教えてくださいました。あの先生は、本当にやさしくて親切な先生でした。」

これは、中国人留学生の自己紹介の一文である。そして、アンダーラインの部分が、日本語学習者にしばしば起こり得る指示詞の誤用である。先行研究によれば、文脈指示の用法の中でも特に「ア系とソ系」の使い分けが困難であり、「その・あの」の誤用は上級話者においても頻繁に見られる。そこで本稿では、長年多くの日本語教育関係者が研究課題としてきた、文脈指示詞（ソ系・ア系）の誤用に着目し、本キャンパスの留学生の習得度調査を実施した。さらに、その結果から誤用の原因を分析し、修正授業を試みた。

テストは2013年7月に、現場指示詞（コ・ソ・ア）の使い分け習得度テストと、文脈指示詞（ソ系・ア系）の使い分け習得度テストの2種類を行い、誤用率を比較した。さらに、先行研究とテスト結果で得られた誤用の分析を元に、2014年1月の授業の中で正答率の低かった文脈指示詞「その・あの」の誤用修正を行ったのち、確認テストを実施した。なお、修正授業の効果をみるために、テスト問題は前回と同じものにした。また、「母語の干渉」に統一性を持たせるために、中国人留学生の答案のみカウントした。

2. 現場指示詞と文脈指示詞

指示詞は通常、「現場指示」と「文脈指示（非現場指示）」に分けられる。日本語と英語の指示詞習得の対象研究を行った新村（1991）は、外国語教育においては一般に、指示詞はごく初期の授業で教えられ、どの教科書も殆ど例外なく、指示詞の現場指示用法を初級文法として扱うが、その後、初級・

中級・上級を通じて体系的に指示詞の用法が扱われることは殆どないと述べている。

日本語の教科書においても、話し手と聞き手が同じ場所にいる時に使う現場指示のコ・ソ・アについては、多くのテキストで初級の早い時期に出現し、コ（近称）・ソ（中称）・ア（遠称）と分類されている。また、その導入例としては、教師と学習者が近い正面に立ち、まず、教師が自分の腕時計を指差しながら「これは私の時計です（この時計）」。次に、相手の腕時計を指差しながら「それはあなたの時計です（その時計）」。最後に、二人から離れた壁掛け時計を指差し「あれは学校の時計です（あの時計）」といったレアリアを使ったものが多い。このように対象が目の前にあるだけに、日本語初心者にも、現場指示の（コ・ソ・ア）は、定着しやすい。しかし、この段階で、「コ・ソ・アは単に位置関係や物理的な距離で使い分ける」と理解してしまうことが、のちに出てくる文脈指示詞、特にソ系とア系の誤用を招いているのではないだろうか。前田（2005）は、ア系指示詞を、対象が話し手・聞き手の共通の視界にある状況で教えるのは、「ア系指示詞が、話し手・聞き手の対象に対する共通知識のもとに使用されること」を教えていることになるのだが、その意図が察知できる学習者がどれほどいるであろうか。また、教師の方にも、ア系の現場指示を教える際に、「ア系の現場指示には、対象に対する共通意識が必要であること」を自覚して教えている人がどれほどいるであろうか、という疑問を投げかけている。

初級後半～中級になると、会話や作文の中で「文脈指示」の（コ・ソ・ア）を使うようになってくるが、明確な学習項目として体系的に取り上げられることは少なく、森塚（2003）は、日本語の指示詞については、上級レベルに到っても十分な理解と習得は難しいとされる概念であると述べている。

3. 文脈指示におけるア系指示詞

文脈指示におけるア系指示詞の使用には、「対象に対する話し手と聞き手の共通意識が必要である」と述べてきたが、黒田（1979）や堀口（1977）が論じてきたように、近年、「ア系指示詞の使用には聞き手の知識は不要である」とする研究者が増えてきた。しかし、両者が挙げた例文を分析・検討した前田（2005）は、共通意識がない対象へのア系使用は、話し手の回想や独り言の場に聞き手が存在しているという状況での出現であり、独白調、回想調における特殊なア使用を普遍化しようとする説ばかりのようであると、反、黒田・堀口論を唱えている。さらに迫田（2004）は、

- ①「ア」は話し手・聞き手のどちらも知っている対象に使うという制約がある。
- ②聞き手の知らない対象でも、独り言や回想的な表現では「ア」が用いられる。
- ③対話において、独り言や回想的な表現が許されるのは、一般的に話し手が聞き手にとって目上か年上の場合である。と、文脈指示のア系使用にさらなる制限をかけている。

留学生のア系文脈指示詞の誤用修正を目的とする本稿では、迫田や前田の「ア系指示詞の使用には、話し手と聞き手の共通意識が必要である」との見解に立ち、論を進めていくこととする。

4. 文脈指示詞の誤用の原因

4-1 母語の干渉

日本語の指示詞は（コ・ソ・ア）の三項対立指示体系である。韓国語、タガログ語、ベトナム語、ネパール語なども三項対立指示体系の言語であるが、英語（this/that）や中国語（这/那）は二項対立指示体系の言語であり、迫田（1993）の調査では母語が三項対立指示体系の学習者の方が指示詞の習得が進んでいることが明らかになった。しかし迫田（1997）は、ソ系とア系の使い分けに関しては、三項対立指示体系を母語とする韓国人も、二項対立指示

体系を母語とするアメリカ人も同種の誤用が多いことから、母語の違いにかかわらず、文脈指示詞の習得は日本語学習者すべてに困難であり、さらに、ソ系指示詞を使うべきところでア系指示詞を誤用するが多いと述べている。吉田（2007）は、このソ系とア系の誤用について、単にソとアの区別が困難ならば、アと言うべきところでソと言う誤用も出てくるはずだが、それはまれであることから、学習者はソの用法を理解しておらず、アの用法には誤解があるのではないかという仮説の元、文脈指示詞を文法項目として取り上げていない、現行の教科書の問題点を指摘している。

中国人留学生にとって「その・あの」の使い分けが難しいのは、ソ系にあたる言葉が母語にないことが原因のひとつではあるだろうが、母語干渉だけでは説明できない、文脈指示詞のソ系 → ア系の誤用の原因を、初級・中級カリキュラムにおける指示詞の指導法から考えてみる。

4-2 指示詞の指導法

日本語学校や中国の教育現場でよく使われている教材、『みんなの日本語』シリーズをはじめ、多くの教材が初級の初期の段階で「現場指示詞」の用法を取り上げ、丁寧に解説されている。ところが、「文脈指示詞」はいくつかの用例の掲載に留まるのみで、文法項目としては取り上げられていないことが多く、解説も十分にされていない。ゆえに、日本語上級者になっても体系的な理解がないまま“なんとなく”使い分けしているのが実状といえる。誤用については、本キャンパスの留学生の誤用例のように、「その時・その日・その人」を使うべきところで「あの時・あの日・あの人」を使うという、「ア系優先」の間違いが顕著であるが、これは、現場指示詞の説明の際に、ア（遠称）で定着させてしまったことが原因であると仮定し、以下の誤用を考察してみる。

前記の誤用例、「(自己紹介で) 私は4年前に日本に来ました。あの時は日本語がぜんぜんわかりませんでした。」は、

1) 私が日本に来たのは今から4年も前のことである。

2) 4年も前のことは、話者である私からも、聞き手からも“遠い”過去のことである。

3) よって、その時ではなくあの時を使った。

と分析できる。しかし、この“過去を遠方とする捉え方”を正しいとするならば、“遠い”の“基準”が必要となる。現在からどこまで遡った時点が時間的に遠く、「あの時・あの日」になるのだろうか。その線引きについて、本学の中国人留学生（日本語上級者2名）とディスカッションした結果、興味深い答が返ってきた。

「あの日は体調が悪かったので休みました」の誤用例の場合、「きのう、おととい、先週、木曜日、23日」など、休んだ日を言い表せる言葉がある場合は「先週の木曜日は体調が悪かったので休みました。」などと言うが、10日くらい前のことでも言い表せる言葉がない場合は「あの日は体調が悪かったので…」と言う。つまり、“遠い”における時間的な長さの基準はないとのことである。また、なぜその日にしないのかについては、明確に答えることができなかった。

5. 本キャンパスの留学生の指示詞習得度調査

5-1 調査の概要と目的

「日本語学習者にとって、文脈指示詞（ソ系・ア系）の使い分けは困難である」との仮説のもと、本キャンパスの留学生における指示詞の習得度調査を実施。文脈指示詞の誤用の特徴を分析し、誤用の修正を目的とした授業を行った調査結果（2013～2014）を以下に挙げる。なお、本キャンパスに在籍する留学生の国籍とその割合から、母語の違いによる影響を比較検討するのは難しいため、調査対象は中国人留学生に限定し、母語の干渉を統一したうえで、テスト結果の分析を行った。

第一回調査（2013年7月実施・対象は中国人留学生41名）では、現場指示詞と文脈指示詞の習得度を比較するために、問題A：現場指示詞（コ・ソ・

ア) の使い分け習得度テスト、問題 B：文脈指示詞（ソ系・ア系）の使い分け習得度テストを同時に行った。

第二回調査（2014年1月実施・対象は中国人留学生25名）では、仮説の通り、誤用が多かった文脈指示詞（その・あの）の使い分けに関する授業を行ったのち、再度第一回の問題 B を行った。

5-2 第一回調査の結果

問題 A：現場指示詞（コ・ソ・ア）の使い分け習得度テスト（表1）

対象 中国人留学生41名

内容 日本語初級レベル問題50問中確認対象問題10問（10点満点）

表1 問題 A：現場指示詞（コ・ソ・ア）の使い分け習得度テスト

正解数(問)	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
正解者数(人)	11	15	6	2	4	0	1	0	0	0	2

受験者合計	41人
延べ問題数(得点)合計	410点
得点合計	335点
平均	8.17点
正解率	82%
不正解率	18%

※9問正解した15人中8名が、8問正解した6名中4名が（そこ→あそこ）と誤用

問題B：文脈指示詞（ソ系・ア系）の使い分け習得度テスト（表2）

対象 中国人留学生41名

内容 文脈指示詞（その・あの）の使い分け問題10問（10点満点）

表2 問題B：文脈指示詞（ソ系・ア系）の使い分け習得度テスト

正解数(問)	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
正解者数(人)	0	4	6	10	0	3	9	0	2	2	5

受験者合計	41人
延べ問題数（得点）合計	410点
得点合計	211点
平均点	5.14点
正解率	51%
不正解率	49%

5-3 第一回調査結果の分析と考察

問題Aは日本語学習者が初期に学習する現場指示詞（コ・ソ・ア）の復習問題であり、82%という高い正解率からも、現場指示詞に関しては概ね理解していると判断できる。しかし、ここで気になるのが、9問、および8問正解した21名中12名が、「そこ」を「あそこ」とした間違いであり、現場指示詞においても、ソ系→ア系の誤用が目立っていた。

問題Bは文脈指示詞の中の「その・あの」の使い分けに限定し、会話文の中で選択させる問題とした。その結果、正解率51%、不正解率49%と、本学キャンパスの留学生にも文脈指示詞の使い分けにおける困難が見て取れる。以下の問題例のように、答えが「その」になる問題7問、「あの」になる問題3問のテストにしたが、不正解の9割が、「その→あの」の間違いであり、逆に「あの→その」の間違いは、延べ123問中わずか19解答（0.15%）であった。

問題例：学生「私が日本に来たのは、5年前の3月25日でした。（その日・あの日）はとても寒い日で、成田空港に着いたら雪が降っていました。」

先生「雪を見たのは（その時・あの時）が初めてですか？」

学生「はい、私の国では雪が降らないので、私は（その時・あの時）初めて雪を見ました。」

以上、第一回の調査では、文脈指示詞（ソ系・ア系）の使い分けの困難と同時に、ソ系 → ア系の誤用も明らかになり、先行研究からの仮説が証明された。しかし、本キャンパスにおける出身国のバランスにより、その原因を、母語が三項対立指示体系であるか二項対立指示体系であるかの影響から分析することはできなかった。そこで、誤用の原因を「指導法の問題」に絞り、習得度の低い文脈指示詞の使い分けを修正していくことにした。

6. 文脈指示詞の修正授業

6-1 修正のポイント

授業の中だけで留学生一人一人の誤用を修正していくのは難しい。実際、（その・あの）の誤用は日本語の授業中よりも、ゼミで作成した自己紹介文の中や教職員との面談中にみられることが多く、日本語を専門としない教職員にも、どこことなく座りの悪い日本語に聞こえているに違いない。新屋・姫野・守屋（1999）は、授業の中で日本語学習者に提示する文脈指示の規則のポイントを、文脈指示には「あ」を使わず、基本的に「そ」を使っておくのが無難であるとし、「ア系指示詞の使用には聞き手の知識は不要である」という論理を主張する研究者たちとは正反対の指導法を提示している。新屋他（1999）の見解には賛同するが、初級の段階での提示ならともかく、上級になるまでの数年間、ずっと曖昧にされてきた文脈指示詞の修正理由が“無難だから”では、いささか説得力に欠けるだろう。そこで今回は、使い分けの二つのポイントを明確に提示し、その効果をみることにした。

6-2 誤用の修正

指示対象が、教師と学生、両者の視界にある、現場指示詞の「あの」と、両者の視界にない、文脈指示詞（非現場指示詞）の「あの」では何が違うのか。教室の一番後ろの学生を指して、「あの人は誰ですか?」「あの人は陳さんです。」という会話が正しいことはほぼ全員理解でき、来日間もない頃の日本語学校の授業を懐かしんでいる学生もいた。

次に「あなたが初めて日本に来た日の日本の天気を覚えていますか?」という質問を試みる。「私が初めて日本に来た日は晴れでした」と質問文をそのまま繰り返す学生もいたが、「あの日は雨でした」という誤用が出たところで、「あなたが日本に来た日を私は知りません。私とあなたの両方が知らないことに“あの”を使ってはいけません」という説明をする。さらに「この教室にいない先生の話をする時も、私とあなたの両方が知っているなら“あの先生”と言えますが、あなたが日本語学校の先生の話をする時に、“あの先生は、本当にやさしくて親切な先生でした”と言うのは間違いです。」という例を挙げる。

この説明を聞き、「今まで知らなかった」と驚いていた日本語上級レベルの学生がいたが、多くの日本語教育関係者の指摘にもあるように、まさに、文脈指示詞を文法項目として体系的に学ぶ機会がなかった証拠ではないだろうか。

- 1) 話し手と聞き手の両者が知らないことには「その」を使うこと。
- 2) ただし、「あの日は楽しかったなあ～」というような独り言や、自分の心の中で過去を振り返っているような場合には、相手が知らないことでも「あの」が使える。

以上2点だけを簡潔に説明したうえで、再度、問題Bの文脈指示詞（ソ系・ア系）の使い分け習得度テストを行った。

7. 第二回調査の結果と考察

問題 B：文脈指示詞（ソ系・ア系）の使い分け習得度テスト（表 3）

対象 中国人留学生25名

内容 文脈指示詞（その・あの）の使い分け問題10問（10点満点）

**表 3 問題 B：文脈指示詞（ソ系・ア系）
の使い分け習得度テスト**

受験者合計	25人
延べ問題数（得点）合計	250点
得点合計	244点
平均点	9.76点
正解率	97.6%
不正解率	2.4%

修正後のテストでは97%以上の正解率を出すことができたが、修正授業後すぐに行ったテストであるため、定着度を測るには定期的な確認テストの実施が必要である。また、問題も短い会話文だったため、問題の難易度を上げた再テストや日常会話、レポートなどでの判断も必要であると考えるが、第一回のテストでは同じ問題が51%の正解率しかなかったことを考えると、修正授業の効果はあったと判断できる。

8. ア系文脈指示詞の上級解釈

8-1 物理的な距離と感情的な距離

メイナード（2009）は、現場指示のア系指示詞を「現実世界で使うア系のことば」、文脈指示のア系指示詞を「イメージの世界で使うア系のことば」とやわらかく表現している。イメージの世界で使う場合には、話し手と聞き手が対象を承知していること（共通意識）が前提となるが、たとえその対象が位置的に遠いところにあるとしても、話し手の対象に対する感情的な距離

は近く、心情的な思い入れを聞き手に伝えるべく、感情の対象をア系のことばで指示していると述べている。そして、その例として、宮沢賢治の「よだかの星」から、以下の一文を挙げている。

よだかはその火のかすかな照りと、つめたい星あかりの中をとびめぐりました。それからもう一ぺん、飛びめぐりました。そして思い切って西のそらの、あの美しいオリオンの星の方に、まっすぐに飛びながら叫びました。

(宮沢賢治「よだかの星」『銀河鉄道の夜』新潮社 1981 P24)

「美しいオリオンの星」でも不自然ではないが、宮沢賢治はあえて「あの」という指示表現で、「私たちみんなが知っている、あの美しいオリオンの星」という意味を強調している。そして、よだかが死を覚悟して目指す、オリオンの星の美しさを共に経験することで、そこに感動が生まれる。「あの」は何かを指すというより、何かについてのこだわりを盛り込んだ「感情表現」と解釈しているのである。

8-2 ヒット曲の中での指示詞

初めに、冒頭の留学生の自己紹介を次のように変えてみる。

「私は4年前に日本にきました。あの時は日本語がぜんぜんわかりませんでした。挨拶くらいしかできない私に、日本語学校の先生は、根気強く日本語を教えてくださいました。あの先生は、本当にやさしくて親切な先生でした。」

↓

「私が初めて日本に来た4年前、あの時は日本語がぜんぜんわからなくて挨拶くらいしかできなかったけど、日本語の先生は毎日一生懸命日本語を教えてくださいました。あの先生は、本当にやさしくて親切な先生だったな。」

このような文章に変えると、これは話し手の「独り言」となり、「あの」の使用が不自然ではなくなる。またこれが、芝居の中の「回想シーン」だとすれば、観客という聞き手がいても「あの」の使用は不自然ではない。むしろ、話し手の昔を懐かしむ強い感情に巻き込まれ、観客の中には、見たこともない先生をイメージしてしまう人もいるかもしれない。

しかし、初級の段階で、このような「ア系」の感情的距離を理解するのは難しく、次に記載する1970年代のヒット曲の歌詞に出てくる「あの」を初級の日本語学習者に説明するとすれば、その説明は、「歌手と聞き手の共通知識ではないから「あの」を使う」ということに留まるだろう。

『あの日にかえりたい』 作詞：荒井由実（1975）

泣きながら ちぎった写真を
 手のひらに つなげてみるの
 悩みなき 昨日のほほえみ
 わけもなく にくらしいのよ
 青春の うしろ姿を 人はみな 忘れてしまう
あの頃の わたしに戻ってあなたに会いたい
 今愛を 捨ててしまえば 傷つける 人もないけど
 少しだけ にじんだアドレス
 扉にはさんで 帰るわ あの日に

『あの素晴らしい愛をもう一度』 作詞：北山修（1971）

命かけてと誓った日から 素敵な思い出残してきたのに
あの時同じ花を見て 美しいと言った二人の
 心と心が今はもう通わない
あの素晴らしい愛をもう一度
あの素晴らしい愛をもう一度

「あの日・あの頃・あの時・あの素晴らしい愛」は、歌手の「独り言・内言・回想」を表す「ア系指示詞」である。しかし、聞き手が歌手の世界に引き込まれ、「あの日・あの頃・あの時・あの素晴らしい愛」を歌手と共有したとすれば、『よだかの星』の「あの美しいオリオンの星」と同様、感情的な距離が縮まった証といえるだろう。

歌詞の中に「コ・ソ・ア」が混在するヒット曲に『世界に一つだけの花』がある。「この中」は、花屋の店先で花を見ている主人公の、現場指示の「この」である。2ブロック目では、目の前の花から視点が人間に移る。一人一人とは言っているが、目の前の花とは違い、一人一人に具体的な対象者がいないため、「その中」という客観的な「ソ系」（本稿ではあえて言及していないが）が使われている。3ブロック目の「その花」も同様に、具体的な対象がないから「ソ系」が使われている。「一人一人が違う種を持つ世界に一つの花」が「この花」「あの花」で表されることはないのである。

『世界に一つだけの花』 作詞：槇原敬之（2003）

花屋の店先に並んだ いろんな花をみていた
 ひとそれぞれ好みはあるけど どれもみんなきれいだね
この中で誰が一番だなんて 争う事もしないで
 バケツの中誇らしげに しゃんと胸を張っている

それなのに僕ら人間は どうしてこうも比べたがる？
 一人一人違うのにその中で一番になりたがる？

そうさ 僕らは 世界に一つだけの花 一人一人違う種を持つ
その花を咲かせることだけに 一生懸命になればいい

9. まとめと考察

文脈指示詞のア系の使用には「話し手と聞き手の共通知識が必須である」「聞き手の知識は必要ない」と、研究者の見解も分かれ、依然、その指導法は体系化されていないが、本稿では「ア系の使用は、話し手と聞き手の知識の共有が基本である」とした修正授業を試み、ソ系→ア系の誤用修正には効果的であるという結論が導き出せた。文法然り、発音然り、上級者になればなるほど修正や矯正が難しくなるケースは少なくない。それは語学のみならず、スポーツなどでもいえることだろう。ゆえに、留学生との会話の中で、あるいはレポートや自己紹介文の中で「あの時・あの日・あの人」などの誤用を見つけた際には、その場で「先生はそれを知りません。先生が知らないことには“そ”を使いなさい。」という、やや乱暴で強制的な指導をすることが、誤用修正の第一段階と考える。

その後、中級～上級者には、文学作品やヒット曲などを教材として、文脈指示詞の心理的な距離を計ってみるのも一考である。今回は、中国人留学生のみのリサーチ結果であったが、読み書きよりも、聞くこと話すことを強みとする非漢字圏の留学生の指示詞の理解度、習得度の調査と修正を、今後の研究課題としていきたい。

参考文献

- 1) 黒田成幸 (1979) 「(コ)・ソ・アについて」『英語と日本語林栄一教授還暦記念論文集』黒潮出版
- 2) 迫田久美子 (1997a) 「中国語話者における指示詞コ・ソ・アの言語移転」『広島大学日本語教育学科紀要』
- 3) 迫田久美子 (1997b) 「日本語学習者における指示詞ソとアの使い分けに関する研究」『第二言語としての日本語の習得研究』
- 4) 迫田久美子 (2004) 「指示詞コソアの正用と誤用」『月間言語』11 大修館書店
- 5) 新屋映子・姫野伴子・守屋三千代 (1999) 「日本語教科書の落とし穴」アルク
- 6) 泉子・K・メイナード (2009) 「ていうか、やっぱり日本語だよ。一会話に潜む日本人の気持ち」大修館書店

- 7) 新村朋美 (1991) 「指示詞の習得 — 日英語の指示詞習得の対象研究」早稲田大学日本語研究教育センター NII-Electronic Library Service
- 8) 堀口和吉 (1977) 「指示語「コ・ソ・ア」考」『論集日本文学・日本語 5 現代』角川書店 (1978) 所収
- 9) 前田昭彦 (2005) 「ア系指示詞と聞き手の知識」長崎大学留学生センター紀要第 13 号
- 10) 本橋美樹 (2006) 「日本語学習者の指示形容詞の使用」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集 16 号』
- 11) 吉田一彦 (2007) 「日本語中級・上級文法構築の提案 — 指示語を例として —」タイ国日本語研究国際シンポジウム

参考資料

- 1) スリーエーネットワーク編著『みんなの日本語 初級 I 第二版』(2012) スリーエーネットワーク
- 2) 荒井由実 (1975) 『あの日にかえりたい』うたまっぶ.com
<http://www.utamap.com/showkasi.php?url=35507>
- 3) 北山 修 (1971) 『あの素晴らしい愛をもう一度』うたまっぶ.com
<http://www.utamap.com/showkasi.php?url=B03659>
- 4) 榎原敬之 (2003) 『世界に一つだけの花』うたまっぶ.com
<http://www.utamap.com/showkasi.php?url=B02421>
- 5) 宮沢賢治『新編 銀河鉄道の夜』(1989) 新潮文庫